

私の生きがい



富田万里子 [とみた・まりこ]

介護老人保健施設ハーモニーこが（京都府）

はじめに

人生の岐路に立たされたとき、私はどんな風に道を選択してきたのでしょうか。

振り返れば私の人生には「岐路」と呼べるできごとがいろいろとありました。就職したとき、結婚し、離婚したとき、故郷を離れたとき、そして介護サポートのチラシを手にしたあのときも。

「ハーモニーこが」に入職したのは2019年です。その1年前、目の調子が悪くなった私は眼科を受診し、医師の言葉に大きな衝撃を受けました。視界がだんだんと狭くなり、ついには失明するかもしれない網膜色素変性症という難病であることを告げられたのです。それはショックなできごとで、それまでしていた仕事を退職し、地元を離れ、息子家族と同居するために京都に越してきました。障害者認定を受け、日々、特に何をすることもなく孫たちと過ごす毎日。そんなとき、ポストに入っていた1枚の求人チラシを見て、これなら私にもできるかもしれないと思ったことはまた、1つの「岐路」だったに違いありません。「私、働くわ」と家族に伝え、介護サポート職の仕事をスタートさせました。当時60歳でした。

施設紹介

私が勤める「ハーモニーこが」は京都市伏見区こが久我という地域にあり、住宅街のなかに立つ入所棟100床の施設です。医療母体のない単独型の老健施設で、「ともに生き、ともに学び、ともにささえ合う」という理念のもと、入所、通所リハビリ、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所、そしてサテライト施設として地域密着型特定施設と認知症デイサービスを運営しています。「在宅生活を支えること」に力を入れていて、超強化型老健施設というそうです。

地域の特徴は、かつては広大な田園風景が広がる農作地域でしたが、田畑は年々減少して次々と新しい住宅が建ち、若い世帯が急激に増加しています。実際に近隣の小学校や中学校は日本でも有数のマンモス校となっています。もともとの農道がそのまま整備されていないところも残っており、往来が不便な場所も多くあります。そんな地域性もあって、施設の南側にある保育園への送り迎えなどのために、地域住民は施設の敷地内を生活道路として通り抜けることができ、施設と地域が常に近く感じることができるのも当施設の特徴です。

業務について

私は現在、週に4日、1日5時間の契約で働いています。私が担当するフロアは主に認知症の方が生活をされていて、4つあるユニットのうち2つのユニット（15名×2ユニット）で介護サポートの業務を行っています。

介護サポート職の業務内容の前提として、「ご利用者への直接的なケアはしない」というルールがあります。介護サポート職が担当する業務は、介護職員がご利用者のケアに集中することができるようにと、ケアの周辺にある業務を切り分けたものです。

業務内容は主に、①シーツ交換②昼食の後片づけ③トイレのパッド補充④施設洗濯の方の洗いあがりの衣類の返却⑤ハイタースプレー液の交換⑥トイレで使用する新聞紙の補充⑦お茶パック詰め⑧委託業者が休みの日曜日のゴミ回収です。

それぞれの業務は、ご利用者が生活しやすくなり、介護職員が働きやすくなるために必要なことで、特に施設内の清潔保持は感染症を予防する上で欠かせない重要な役割となっています。私自身も一つひとつの業務の合間には必ず手洗い、手指消毒を行い、感染